

さすけねえ福島やるべ中小企業

第8号

2011年6月16日(木)

震災から3ヶ月が過ぎました。

少しずつ復興への歩みが進んでいる一方で、原発事故そのものの収束や今なお被害を受け続けている県民へのサポートは、なかなか見通しがつきません。精神的にも肉体的にも、そして経済的にも

3ヶ月以上という長い期間の疲労が蓄積されています。

悩んだとき、困ったとき、決いて一人で悩まず、同友会の仲間にお声かけ下さい。

仲間と共に、お互いに元気と知恵を交流しながら、企業や地域の存続と

復興への足取りを進めていきましょう!!

復興への希望の光…広野町に仮店舗を出店(株)ネモト根本茂樹さん



楡葉町でスーパー2店舗を経営していた根本さん。

原発事故における緊急避難指示を受けて避難。

そんな中で、お取引先の「民宿ひろの」さんのお誘いで

「ヴィレッジ」3キロ手前にある広野ドライブインに

プレハブ4坪のお店(マミーズ広野売店)を5/26に

オープンさせました。

4坪の売り場には、雑誌やインスタント食品やパンといった

定番ものに加え、根本さん自身が「民宿ひろの」の厨房を

借りて、おそうざいやお弁当を作って提供しています。

噂を聞きつけた楡葉町の方の訪問も多いそうで、「マミーズが始まったよ、という話をきいただけでも地元の人はいりらしい。希望の光だね」との話を伺いました。

今後は、「現在、ばらばらに分かれてしまっている40人の従業員とより一度お店を開きたい。

今は、自分のできることをしていくだけです」と語る根本さんでした。

震災後3ヶ月が経過し

地震による直接の影響は一段落した感があります。

しかしながら、今後も余震発生

の可能性が指摘されているなど、企業に対する

危機はいつどんな形でやってくるのか分かりません。

今回の教訓をもとに、各社で「災害対応マニュアル」を

作成し、こうした災害の際にとるべき対応を

確立し、社員やお客様と共有しておくことが

求められます。

想定外の事態も起き得る、ということ的前提に

ライフラインや物流経路なども含めて対策を練る

ことが大切だと思われます。

教訓が冷めないうちに

自社の「災害対応マニュアル」の作成を!

企業存続

のためには的確な情報の

入手、そして行動が大切!

e.doyuで会員の

皆さん 同士の情報交換。

経営情報の入手を!!



<http://www.e.doyu.jp/fukushima/>